

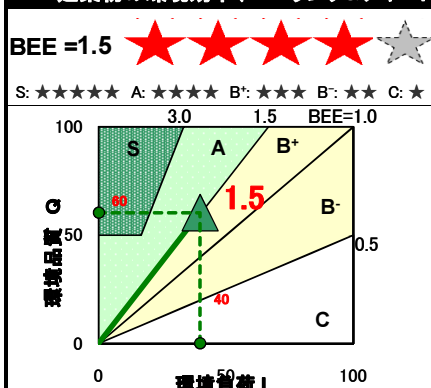
CASBEE[®] 新築[簡易版]

評価結果

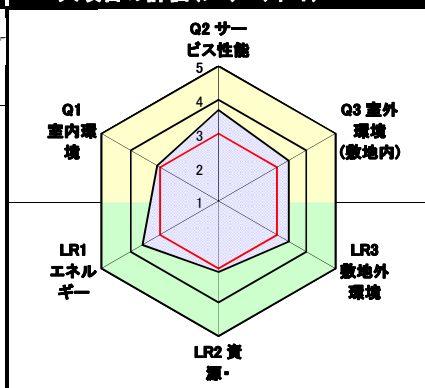
■使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版) 2008年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-NCb_2008(v.3.1)

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	佛敎大学紫野キャンパス整備に伴う新棟	階数		
建設地	京都府京都市	構造		
用途地域	第1種中高層住居専用地域、第2種中高層住居専用地域	平均居住人員		
気候区分	地域区分Ⅳ	年間使用時間		
建物用途	学校	評価の段階		
竣工年	2014年3月 予定	評価の実施日		
敷地面積	25,546 m ²	作成者		
建築面積	5,458 m ²	確認日		
延床面積	21,600 m ²	確認者		

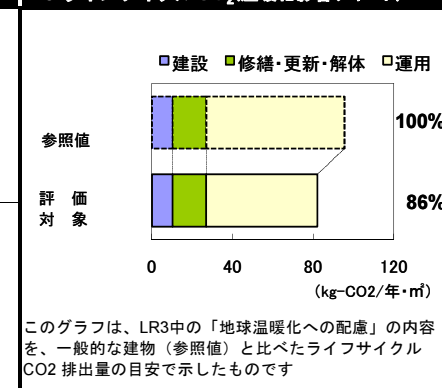
2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)



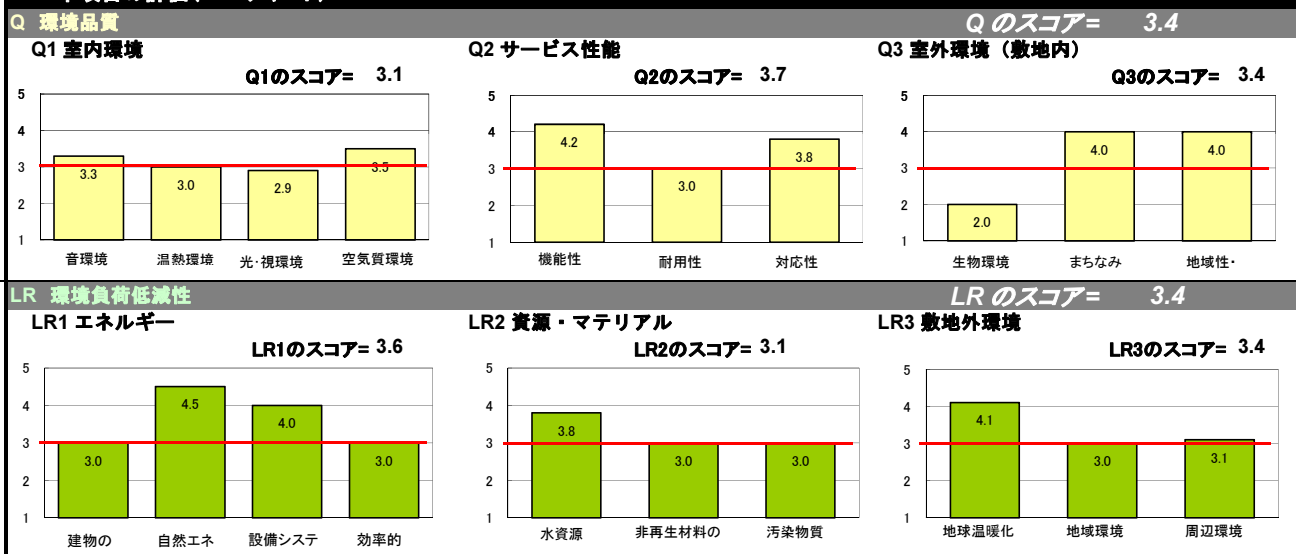
2-2 大項目の評価(レーダーチャート)



2-3 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)



2-4 中項目の評価(バーチャート)



3 設計上の配慮事項

総合			その他
・自然エネルギーを有効に利用し、ランニングコストを削減しました。 ・複層ガラスや適切な断熱処理により、建物の熱付加を低減しました。 ・長寿命の建物となることを目指し、LCCの低減を図りました。			0
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)	
・アトリウムにより、自然換気・自然採光を行いました。	・事務フロアではOAの範囲を拡充しました。	・地下に採光のとれる中庭を設けました。	
・バルコニーにより、日射の制御を行いました。	・講義室をフレキシブルに使用できるよう配慮しました。	・中庭空間は外部動線とつながった、開放されたものとして計画しました。	
	・給湯コーナーを各事務エリアに設けました。	・西側に敷地内通路を設け、付近住民の居住環境に対す	
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境	
・雨水を利用した中水システムを設けました。	・節水器具の使用、雨水利用により水資源の節約に配慮しました。	・地下に駐車場十分な量の駐車場を設け、またスクールバスの運行を計画し、付近への交通障害が起こらないよう配慮しました。	
・太陽光発電システムをもうけ、自然エネルギーの直接変換利用を図りました。			
・アトリウムにより、自然換気・自然採光を行いました。			

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される